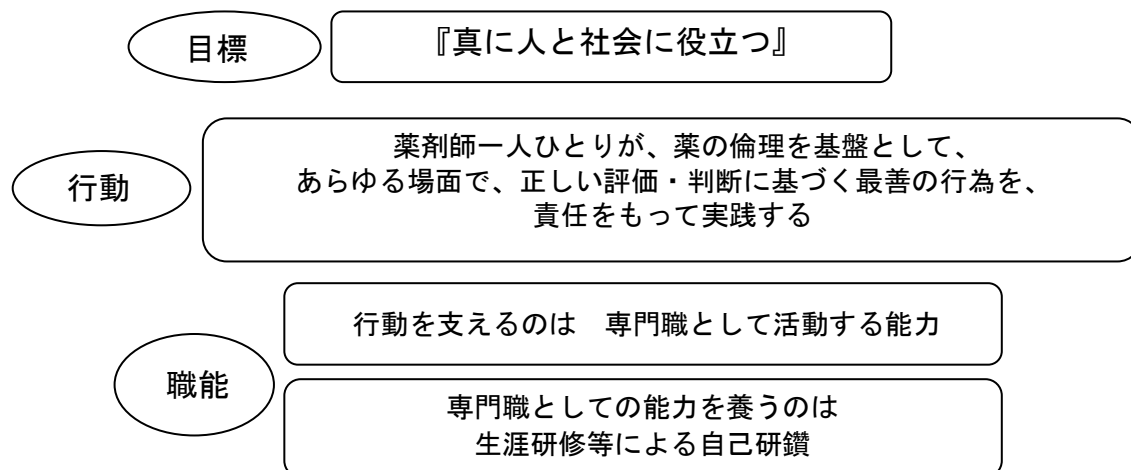


「求められる薬剤師」への道程



社会の求めている人材は卒後の生涯研鑽によって作られる

薬剤師生涯学習の在り方

- ◎必須基盤は、ジェネラリストとして、総合的職能向上を目指す「生涯研修」。
- ◎常に進歩している医療と薬物療法・医薬品に対応できる能力の獲得が必要。
- ◎特定の領域についての、重点的な学習や専門性を深める学習により、地域医療やチーム医療の中で、求めに応じて能力を発揮できることが必要。
- ◎研修内容と成果の質を保証し、社会からの信頼を得るための、評価・認証の仕組みが不可欠。

薬剤師生涯学習の基本条件

総括的条件

- ▶継ぎ目なしで、生涯にわたって継続する学習。
- ▶教える者でなく学ぶ者の意向が優先する（大学教育との差異）。
- ▶CPD サイクルの実践

学ぶ者の心掛け

- ▶自己診断から始め、目標（キャリアパス）を定め、計画的に学習する。
- ▶研修の質を確かめ、習得度を自己評価し、次の研修を選択する。
- ▶自らの職能向上と実務への反映が学習の目的である。資格（認定証、称号等）の取得は、手段としては大切だが目的ではない。

望ましい生涯学習環境

学びの環境

- ▶時宜にかなった、質の高い研修が、各地で計画的に提供される。
- ▶研修の企画に当たっては、受講者の意向が反映されるよう留意する。
- ▶実施者は受講結果を確認し、受講歴を明白に示す受講証明（単位）を付与する。
- ▶学習意欲に応えられるように、遠隔研修、IT研修等が整備される。
- ▶認定制度については、客観的評価（第三者認証）を備えていることが必要。

記録と効果

- ▶学んだ者は、自ら学習記録（ポートフォリオ）を作成し、履歴と成果を確認する。
- ▶組織や職場の指導的立場にある者は、学んだことが報われる環境を作るように努める。

「求められる薬剤師」への道程【解説】

本図は、薬剤師が、社会、あるいは国民から求められる薬剤師となるために持つべき、「目標」、「行動」、「職能」、及びそれに到達するための生涯学習の在り方、基本条件、望ましい学習環境を示したものである。

○ 記述

語句の記述は、前後を自由にイメージできる形のほうがインパクトが強いという考えに基づき、全体として簡明な記載とした。修飾あるいは説明語を加えて理解を助けることは自由である。

○ 「薬の倫理」

Veatch, Haddad の概念：薬剤師のための倫理（渡辺義嗣訳、南山堂 2001）を参考としている。

薬の倫理

人間としての倫理

- ◆ 何が決めるのか、何が正しいかの原則——道徳観と愛情と個の尊重

専門職としての倫理

- ◆ どの場面に適用するのか——変化する社会需要と医療環境にともなうあらゆる場面
- ◆ どう判断し行動するか——病む人の心の理解と尊重を基盤として、
正しい薬学的評価による、最適な判断と責任ある行動

○ 「薬剤師生涯学習の在り方」

生涯学習の必須要件は、あくまでもジェネラリストとしての総合的職能向上である。

特定領域認定制度の認証に当たっては、当機構「認証事業実施要綱」第2条第2項②に示すように、ジェネラリストとしての認定要件を満たしていることを条件に認証している。

○ 「薬剤師生涯学習の基本条件」

学習者は、CPD サイクル <http://cpc-j.org/contents/c12/20100510.pdf> の実践が基本である。

○ 「望ましい生涯学習環境」

学習者が CPD サイクルのポートフォリオ（自らの学習記録）を作れるかどうか、生涯学習の成否を分ける <http://cpc-j.org/contents/c13/20110907.pdf>。

学んだことが報われる環境を作るのが、先輩、指導者、管理者の責任であり務めである。